

憐れみ

知っておきたいキリスト教のことば (10)

わたしたちの礼拝（聖餐式）では、「キリエ」を唱えます。「キリエ・エレイソン」という言葉は、「主よ、憐れみをお与えください」という意味です。今回はこの「憐れみ」という言葉について、考えてみたいと思います。



さて、「憐れみ」と聞くと、皆さんはどのようなイメージを持たれるでしょうか。一般的な辞書で調べてみると、「不憫に思う」、「同情する」、「気の毒に思う」、「慈悲の心をかける」、「恵む」といった意味が書かれています。聖書の中でも、そのような意味で用いられていることもあります。目の前にいる人が悪い状況に陥っているのを見たときに、心の中に抱く同情という感じでしょうか。しかしそれに加えて、特にイエス様が関わった場面では、心情だけではなくて行為として用いられていることが多いようです。

例えば、マタイによる福音書 20 章 29～34 節を見てみましょう。二人の人がイエス様に「わたしたちを憐れんでください」と叫んでいる場面です。聖書では「憐れんでください」と訳されていますが、原文のギリシア語では命令形になっています。つまり少し乱暴ですが、「わたしたちを憐れめ！」と叫んでいると考えられます。そしてそのときに彼らが求めたのは、イエス様の「かわいそうに」という同情だけではなく、実際に彼らに対して何かをおこなうことなのです。

わたしたちにもイエス様は、他者に対する憐みをおこないによって示すようにと命じられます。善きサマリア人のたとえ（ルカ 10:25～37）などをみても、そのことがわかります。

わたしたちが隣にいる人に対して憐れみをもって接することができるのは、わたしたちがまず神さまから憐れんでいただいたからです。そしてその憐みとは、イエス様の誕生、さらにイエス様の十字架をもって現されたものなのです。

次回は「按手」です。お楽しみに。